

旧第2通学区 高校の将来像に関する住民説明会 会議録（概要）

日時 令和元年（2019）7月23日 18:30～19:50

場所 須坂市中央公民館

1 開 会

2 あいさつ

旧第2通学区の高校の将来像を考える協議会会長 三木正夫

3 説明会

(1) 少子化等地域を取り巻く現状認識

長野県高等学校長会副会長本多須坂高校校長から説明

(2) 高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針

長野県教育委員会から説明

(3) 質 疑

Q. 少子化でクラス数が減っていくというお話がありました。高校の統合・再編は、何年ごろを予定しているのでしょうか？

A. 第2期高校再編は、ゴールは2030年を予定しています。

Q. もっと早くならないのですか。

A. 全県でのゴールが2030年になりますので、地域の状況によっては、これより早まることがあります。

Q. 少子化で困っているということですので、子どもを増やす対策をしていただければと思います。

A. 少子化の推計は、今現在の生まれている子どもの数字で推計していただいています。少子化対策は全国各地で行われていますが、実際問題として子どもが減ることは避けられない。先進国での少子化は、世界的傾向で避けられないと思っています。そうした中で、子どもを増やすのは難しいので、賢く縮小することが必要ではないか。そうした意味で、高校再編と言うのは、今から15年後20年後はどうなるのかと言うことを考えながらやっていかなければいけないと

思います。努力はしますが、子どもを増やすということは非常に大変なことだと思っています。

Q. 「三つの方針」は一度定めたら変更はないのでしょうか。

A. 「三つの方針」は普遍的なものではなく、時々に応じて修正・変更はあり得ますし、必要なことです。校長や教職員、生徒、保護者、地域住民の方々、そうした方々と議論する中で、変えていくものだと考えています。

Q. 仮に高校の統廃合が避けられないとなった場合に、生徒が、行く高校が見つからないとなれば、保護者とすれば厳しい。

A. 学校としての特色を持ちながらも、様々な生徒を受け入れることも学校の使命として必要なこと。生徒の選択の幅を大きく広げながらやっている高校の例としては、総合学科がモデルになるのではないのでしょうか。個々の生徒のニーズとか、必要性を考えながら教育活動をやっていくことは大事だと思います。

Q. 世の中がどんどん変わる中、40 人学級と言うのは適切なのでしょうか。OECDの中で、日本の教育予算は最下位と言われる中、長い時間をかけても変えていくということをしないと、10年20年後の子どもたちをどうしたいのかと言う議論にならないのではないのでしょうか。

A. 40 人学級は法律となっているので、これを変えるのは難しいと思います。生活集団としては40 人学級でも、学習集団としては、20 人とか30 人もあり得ます。今年は、少人数学級を研究する高校も設け、研究しているところです。

Q. 学びを変えていくことについて異論はありませんが、評価の方向について、どういった方向で何を良しとするのか。何を基準にして、何を目指していくのかと言うところが、子どもたちにとっては、具体的には分かりにくいのではないのでしょうか。

また、優秀な人材が流出して、この地域での人材不足が加速すると言ったときに、何を求めて何を育てるのか。長野県でもしっかりと、外部からめがけてくるような、先進的な教育の場を作ることも必要だと感じます。

A. 三つの方針についての評価と言うことかと思いますが。評価をどのように行うのかということですが、学校内で評価を行う学校評価と言うシステムがあります。また、学校評議員などをお願いする関係者評価もございます。保護者にアンケートをするということも行っております。いろいろなものを複合的に行いながら、三つの方針について評価するシステムの構築はとても大事だと思います。

す。住民の皆様方、産業界の方々にも幅を拡げながら、いろいろな方の意見をいただきながら、学校の行く先を見定めていくことが今後大事になってくると思っています。

Q. 旧第2通学区の中では、中野立志館には定時制があるが、須坂にはなくなっ
てしまいました。定時制自体が人数的には少ない学校だと思いますが、昼間働
いてから学校に行くとなると、中野まで行くのではなく、近くで教育が受けら
れれば良いと思います。

A. 中野立志館にある定時制の機能をさらに充実して、定時制教育の発展を図っ
て行くのが良いと思っています。定時制教育については、これまでは勤労青年
の学びの場と言うことでありましたが、現在は不登校の子や発達障害の子など、
多様なニーズの子どもたちがおります。そうした子どもたちにも手厚く教育し
ていくことは必要ですので、定時制教育の充実も、「高校改革～夢に挑戦する学
び～」の中で、しっかり対応してまいります。

4 閉 会